

【めむろ未来ミーティング日程 10】

令和6年1月 12日（金）

13:30～14:35

■参加者 6人

■芽室町 町長、副町長、教育長
政策推進課長、魅力創造課参事
農林課長、環境土木課長

■記録 広報広聴係長

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項

資料1 公共施設再配置構想

資料2 新嵐山スカイパークの在り方

- 4 意見交換

【意見】

新嵐山スカイパークの件で、全体的に気になっていたことがある。今は町が指定管理者制度で運営している施設が多いと思うが、町職員の担当と指定管理者とユーザーとの関わり方が見えなくなっている。例えば、美生川河川敷のパークゴルフ場も指定管理者制度で運営していて、スキーシーズンに入り、歩くスキーコースの整備について教育委員会や指定管理者に話をしに行く。その時に気になるのが、教育委員会にスキーを履いたことがない者がいて、その職員に話をして通じるのかどうかという問題がある。仕事として、雪が降ったから踏んでコースを作ると、頭ではできるかもしれないが、スキーそのものはわからない。昔新嵐山スカイパークのスキー場ができた時には、たくさんの町職員が関わっていた。そのため、非常に分かりやすく、何かあってもすぐ対応ができていた。同じようなことが多くあると思っている。施設のことを誰に言ったらいいいのか、誰が管理しているのか分からなく、たらい回しにされるような感じがする。本題に移ると、これから新嵐山スカイパークを再生する。魅力創造課で担

当すると言っても、町民はわからない。資料にも再生について色々な案が出てきているが、これが先ではなく、まず役場の職員がどう関わるかということと、町民がそれに対してどう考えているかということが出てこない。役場の職員が他人事に見えてしまう。色々な事業をやっていく時に、現実には色々なことが起きたら、この担当者は一体何を考えていたのかとなってしまふ。新嵐山スカイパークの運営会社が経営不振で倒産するという残念な結果に終わったが、担当して毎日通っていた人がどこまで把握していたのか町民は何も分からない。それで実はお金が足りなかったと言われても、使い過ぎて足りなかったのか、それとも別の要因なのか、その原因が分からないので町民は色々なことを言ってしまう。それを基に出来上がった再開案も本当に大丈夫かと思ってしまう。それが指定管理者と町との関わり方の問題点として感じている部分。

もう一つ、町は新嵐山のスキー場と宿舎を含めた部分を管理区域という言い方をしているが、町民はどこまでが管理区域であるとか、そのような感覚はないと思っている。あの山全体が新嵐山だという認識が強い。ドッグランがどうか、スキー場がどうかという話をするより、町民が求めているものは違うかもしれない。牧場を含めて、大きな一つの山として新嵐山をどうしていくかという話をする方が良いと思う。

また、今回の倒産で、スキー場が営業停止となった時、教育関係者からも子ども達の教育をどうするかという意見が出たと思う。そこからの意見がきっぱり聞かえてこない。

【町長】

職員に関して、昔はスキー人口も多かったため職員にも経験者がいて、経験者が担当になるという可能性は高かったとは思いますが、必ず経験者を配置しなくてはならないものではない。ただ、ご意見のとおり指定管理者制度も含めて、事業者と職員と利用者、この3者がうまく連携していないという部分は反省しなくてはならない。指定管理というのは基本的に町がやることを事業者にお願している制度。そのベースには利用者の皆さんの意見や使い勝手などを考える必要がある。この3者がきちんと連携す

るようにということは言ってきているが、これまで以上にしっかりしていきたい。

管理区域という言葉は町民の方々には確かに関係のない話だと思う。今回の構想については管理区域だけではなく、エリア全体での構想を考えていく。

教育関係については他の地域でも意見をいただいている、これからの考え方の中で考えていけないといけなと思っています。条例としては町民の憩いの場というところと観光を振興する両方の目的があるため、今までの第三セクターという形だと非常に曖昧な部分があったと思う。なので、今度は人を呼ぶ部分は民間の事業者をお願いし、町民に対してどうするかというところには、町がお金を出して、例えば町民割引や町民を対象とした事業などを考えていく必要があると思っています。前の反省も踏まえ、しっかり町民に対してやっていきたい。

どんな事業をやるのか、どんな規模でやるのか、あるいは事業費、これらは今まっさらな状態。これからそれらのあり方やランドデザインの策定を時間かけてやらせていただきたいと思っている。その時にスキー関係者や地域の皆さん方に随時説明や進捗状況をお伝えする機会は設けていきたい。

資料にもあるが、令和5年10月から6年1月までにやってきている内容を町として分析して方向性を決めていきたいと思っている。ただ、申し上げておきたいのは町として考え方を整理するのは方向としては一つである。180度違う意見を全て実現することはできないので、町としてこういう方向でこういう考え方でやりたいというところは説明させていただいて意見をもらうということになると思う。

ランドオープンは時間がかかると思っていて、マスコミも含めて話としては令和7年4月の再開を目指すと言っているが、現実的には難しいというのが正直なところ。だが、スキー場の再開の声は非常に多いので、規模の縮小や直営も考えながらなんとか進めていきたい。

【意見】

スカイパークのどこに何を配置するかもうちちょっと考えるべき。グランピングに関しても、楽しかったという

利用者もいれば、静かに過ごしたいのに夜までスキー客がいて静かにすごせなかったという利用者もいた。その辺りは mismatch だった。ゲレンデの下に全部押し込めようとした結果だろうと思う。広い敷地をもっと広く使う方法はなかったのか。

また、先ほどの件で誤解してほしくないのは、何も職員にスキーをやれと言っている訳ではない。もっと現場に立ってほしいということ。

【町長】

現場主義というのは大事であり、管理や担当しているところに足を運んで状況をしっかり把握することが大事だということは、仰るとおりだと思う。

【意見】

スキー場はまたスキー場として再開する方向なのか。

【町長】

今の方向としてはそう考えている。

【意見】

またあの山でスキー場をやっても、同じことだと思う。スキー人口やスノーボード人口も減少している中で、経営していけるのか。

【町長】

そこは私たちも認識していて、新嵐山くらいの山の規模でスキー場単体での黒字化は難しい。ただ、夏やエリア全体で魅力づくりを進め、総合的に黒字化する方法を考えたい。スキー場を運営しても良いと言っている事業者もある実態であるが、エリアとして成り立たせる考え方が必要だと思っている。

リフトの運行権は会社が持っていたが、今は町に権利を移す手続きをしていて、今月中に認可されそうであり、来年のシーズン以降は細々となるかもしれないが、教育や授業、自衛隊の訓練等に対応するような形で再開させたい。

新嵐山は素晴らしい資源だと思っているので、有効活用していきたいと思っている。夏もお客様は来

ていただいていたが、収入には結びついていなかったというのが実態。町として稼ぐ考え方も持たないと継続していけないと思っている。

また、今後は施設の改修も必要になってくると思う。そのためにお金もかかるが、総額を言うのではなく、国の補助金や交付金を使わせてもらって、町としての負担がどれぐらいなのかというところで議論させてもらいたいと思っている。既に国などにも色々働きかけている。

【意見】

新嵐山の再生は何回目なのか。何回目の再生で今回は大丈夫なのか。今回は破綻だったのか。破綻は町民の負担になっていないのか。

【町長】

今回は破綻であり、間接的には町民の負担になっている部分もある。

【意見】

再生は何回目なのか。

【町長】

破綻は初めて。

【意見】

破綻は初めてだが、節目で方向性は変えてきていると思う。広げれば広げるほど儲からないことをやっていくため負担が増えていく。また、資料にもあるように色々無責任な意見が出てきているが、今回は大丈夫なのか。

【町長】

それをこれから大丈夫なように皆さんの意見を聞きながらやっていきたい。今までの大きな転換期としては、直営でやってきたものを指定管理に変えた平成17年だと思う。その時点で色々整理すべきこともあった。それがそのままの状態でごままで来ていて、今2回目の再生に頓挫してしまったという状況だと思っている。

【意見】

リフト利用者は30年前から1/3くらいに減っている。このままいくともっと減る可能性は当然ある。これをどう残すかという部分で、リフトの利用料金で埋めていくという考え方では残さない方がいいと思う。そうではなく、教育の一環として絶対必要だから税金を投入するという考えに、町民が納得すればいい話である。色々やるがお金を取らなかったらやれないということではいけない。

【町長】

意見を全て取り入れてやるということにはならない。今の段階で絶対大丈夫かと言われても明言はできないが、絶対大丈夫と言えるような計画策定や動き方をしないといけないと思っている。また、町民の負担にならないようにという部分も考えないといけない。

【意見】

新嵐山がなくなって会合ができないという意見も聞くが、そういう機能はあった方がいいのかもしれないが、あまり効率が良くないため難しい部分もあると思う。宿舎の機能において今後選択していかないといけない。

【意見】

モンベル社との協議はどのくらいまで進んでいるのか。

【町長】

ランドデザインをアウトドアメーカーであるモンベル社のノウハウをいただいて策定しようと思っている。モンベル社が運営まで全部やってくれるような感覚があるかもしれないが、それは違う。これからの交渉ではあるが、モンベルとしてはできれば地元を受け皿があれば地元をお願いしたいという意向。ただ、ランドデザインや、アドバイスに関しては協力すると言っているのが現状。ショップ出店は非常に魅力的だし期待されている方もいると

思うが、どう地域に還元できるかが大事だと思っている。

【意見】

日高山脈国立公園化に際して、新嵐山が一翼を担えるか考えるチャンスであると思う。日高山脈へのアプローチにはいい場所である。その辺りもモンベル社のノウハウを活かせるのではないかと感じた。

【町長】

日高山脈は登山される方からすると非常に厳しい山で、プロ級の人しか登れないと認識している。なので、売り方として景観を見ながら休憩する場所や、日高山脈に入る玄関口でありアクティビティセンターの整備ということは検討している。頂上の雑木も伐採したため景観も素晴らしいので、絡められないかと思っている。

14時35分終了

